

目 次

2014年度事業関係	
事業内容報告	5
1. 事業活動	9
【1】地域活動／高齢者・障害者・子どもの生活を支援する事業	9
【2】コーディネート事業・相談活動・ ボランティア支援・当事者支援活動	17
【3】教育・啓発活動	22
【4】コミュニティ・メディアにかかる活動	24
【5】国際的な草の根の交流を行う事業	24
【6】リサイクルバザー事業	24
2. 組織と運営	25
2015年度事業計画案	29
2014年度決算報告および2015年度予算	34
会 員 関 係	46
＊2015年度役員名簿	
＊2015年度ボランティアグループ運営委員名簿	
＊会員名簿	
寝屋川市民たすけあいの会 会則	49
特定非営利活動法人	
寝屋川市民たすけあいの会 定款	52
寝屋川市民たすけあいの会のあゆみ	63

寝屋川市民たすけあいの会

2014年度事業内容報告

寝屋川市民たすけあいの会は、1978年5月に設立以来、市民の手により主体的につくられた寝屋川ボランティア・ビューローを拠点として、様々な地域活動を行ってきた。

本年度事業報告の概要

〈全体的概要〉

2014年度は、2011～13年度までの取り組みを継承しながら、当年も含めた次の3年のあり方を考える年度として、具体的な事業の展開というよりも、組織の方向性を考えていくという打ち出しを行った。全体的には、大きな方向性を打ち出した。

1. 運動的、開拓的事業活動の必要性の高まりに対応した取り組みを。

たすけあいの会のミッションに基づいた制度があるから行うではなく、お金があるから行うではなく、地域全体をきちんととらえ、社会情勢も鑑みながら、きちんと運動的、開拓的な事業活動に取り組んでいく。

→そのために、たすけあいの会が発足した当時のミッションとビジョンをより具体的に取り組むべき内容として「ミッション・ステートメント」を策定した。別紙

2. つながりとネットワークづくり

私たちはこれまで、「つなぐ」ことをミッションに、さまざまなネットワークに参画してきた。また、その中で、一定以上の役割を果たす必要にも迫られている。一見すると、自らの団体の活動を大きくしていくことと、「つなぐ」ことは矛盾するようにも見えるが、これまでのネットワークを大切に、関係団体との協力の中で、(福祉の)まちづくりにつながることは積極的に参画していきたい。

狭い意味の障害者福祉ではなく、もっと広い分野へのネットワークを進めていきたい。

※2014年度については、講演会の開催以外には特に取り組むことができていない。

3. 次のステージをめざして一力をつけていく

前3年間の拡大志向により、組織的に肥大化がおこったこともあり、事業・活動をしっかり行っていくため、実践力を高めていくための内部研修をきちんと企画していく。また、継続した会の取り組みについても、しっかりと全体で話合っ、みんなでやっていくという取り組みを進めていく。

→2014年については、内部のスタッフの研修を継続的に取り組んだ。寝屋川市民たすけあいの会のビジョンやミッションを引き継いでいくための研修と支援技術を深めていくための研修を行った。

4. 福祉事業については、スケール的な問題を考える時期であるように感じる。

制度の変更に伴って、いろいろな分野でいろいろな事業所の参画があり、様相が変容してきている。その中で、くらし支援や日中活動については必要性に基づいて進めていくにしても、計画相談も含めて、拡大していくサービス・ニーズに応え続けていき、事業規模を拡大していくことが当会の方向性であるとは思えない。単純に「する」「しない」ではなく、そのあり方・方向性を考えて行きたい。

くらし支援については、まだまだ課題が多く、整備と取り組みを進めていく。

→計画相談については、行政と話し合いの上、役割を限定していくことになった。他の事業についても、それぞれについて一つ一つ考えていく。

- 【1】数十年続けている「たすけあいサロン（ミニデイ）」、さくらんぼの会は今年度も継続して開催している。さくらんぼの会は新しいメンバーが参加されるようになった。
- 【2】寝屋川十字の園、ロイヤルライフカミダへの施設訪問ボランティアおよび、もともと保健所が主催をされていた神経筋難病者交流会「ひまわり会」へのボランティアとしての参加も行っている。高齢者の施設の様相が様変わりする中、いろいろな課題はあるが旧来の関係性を継続するというで行っている。
- 【3】こどもたちの遊びのプログラム「そるどみ」を月に1度定期的で開催している。こどもたちの参加人数が減っている状況ではあるが、逆に継続して参加してくださるボランティアは増えている。
- 【4】障害者総合支援法下での日中活動は「ぼちぼちはうす」「ゆと・りろ」を行っている。2014年度は「ゆと・りろ」も含めて2名増えた。基本的には「ゆと・りろ」以外は積極的にメンバーの募集はしておらず、相談支援の中で紹介をして利用をしていただく形になっている。

- 【5】 障害者総合支援法下でのヘルパーの派遣事業。ヘルパーステーション「ほっと」として、居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援、重度障害者等包括支援事業を行っている。
- 【6】 障害のある方の暮らしをささえる事業として、「すだち」を拠点にしての体験宿泊事業、アパート・マンションを法人で借り上げて（シェアハウスとして）、一人暮らしをしていただく。相談支援の地域移行、地域定着を進めていくなかで、一人暮らしを支えている。
- 【7】 障害者総合支援法下の相談支援事業を行っている。
- 【8】 ネットワーク活動として、社会福祉協議会、市民活動センターと、ボランティア、NPOとしてのつながりから。また、障害者支援の分野では主に、自立支援協議会の会議のつながりから、ネットワークを進めている。
また、精神障害者地域交流事業「Club E&T」の事務局を担い活動を行っている。特に、今年度は「ハート・アート展」などの新しい取り組みを行っている。
- 【9】 教育・啓発活動としては、9月に「NPO 法人ほっとプラス」代表理事の藤田孝典さんをお招きし、「ソーシャルワーカー・センスとは～貧困問題に対するソーシャルワークの可能性～」講演会を開催した。また、インプロ・パークは2回開催した。
- 【10】 コミュニティ・メディアについては、てれれの上映会だけではなく、映像あそびのワークショップ「なにとる(撮る)? ナニみる?」開催した。
- 【11】 リサイクルバザーは主催のぼちぼちばざーも含めて、3回行った。
- 【12】 引き続き、寝屋川難病連絡会、障がい者の自立をかんがえる会「やじろべー」の事務局も担っている

〈組織と運営〉

- 【13】 全体的概要の中でふれたように、今年度は内部のガバナンス向上に力を注いだ。
内部研修を運営方法も含めて充実させた。
- 【14】 財政については、4期ぶりに単年度黒字になった。ただし、これはスタッフの昇級ストップと事務職員の非常勤化によって支出を抑えたことによって実現した。収入は数年ぶりに横ばいであった。会員数についても横ばい。寄付に関しては減っている。

以下は「たすけあいの会」が2014年度に行った事業の内容である。

寝屋川市民たすけあいの会

具体的ミッションと戦略
 ミッション・ステートメント(バリューに基いたパーパスを運成するための事業)

きちんと反映されているか

障害のある人もない人も関係なく交流することが難しい人たちのためにだれもが参加できる交流の場、プログラムをつくっていく

だれもが住みやすいまちづくりを目指していくために、いろいろな側面からの相互理解、啓発活動を行っていく。

地域社会の中で孤立する人を作らないために、特に孤立しがちなマイノリティの人に対して、エンバワメント支援を行っていく

地域のさまざまな団体、機関、人とのネットワークづくりを進めていく。

行政、制度にとわれない、市民自らが考え、検討し、動き、考えながら開拓的な活動を行っていく

運営指針
 行動指針
 ミッションを具体化するときの指針

市民が創り・・・
 気づいた人が主役です。枠組にとらわれない開拓的な活動を目指していきます。そのためにも運営資金もなるべく市民の手で、と考えています。

市民が考え・・・
 その場かぎりの活動に終わらせず、常に問題の背景や改善の方向をさぐります。いろいろな領域の専門家も参加しています。

市民が動いています。
 自分たちの手と足と頭を使って、助けを求めている人の「今」を支えます。

「自分たちは何のために活動しているか」

ミッション

●人と人との交流の場づくりをめざします
 「たすけあいの会」は、一人一人の人間が尊重され、差別のない社会を目ざし、市民自らの手による（たすけあいの会）を拠点として

●たすけあいのネットワークづくりをめざします
 ●市民による福祉のまちづくりをめざします
 寝屋川ボランティアビューロー（たすけあいの会）

ビジョン
 (実権にめざしている)

特定の宗教や政治的信条を越え、一人の人間として活動を展開しようとするものです。
 民間団体として独立した立場を守りつつ、行政機関とも協働して事業を進めています。また地域の社会福祉協議会などの民間団体とも協力しあって、地域福祉の推進につとめます。

事業内容

【1】事業活動

【1】地域活動／高齢者・障害者・子どもの生活を支援する事業

A ボランティア活動

(1) 在宅ボランティア派遣活動・・・活動なし。依頼はあるがボランティア・コーディネートを休んでいることと、ボランティアがいないので、お断りしている。

支援センターのケースとして、在宅ボランティア活動と類似した活動を行っている。

(2) 交流活動・サロン活動・つどい活動

① 外出交流会

1984年度より、在宅の寝たきり老人・障害者・難病患者等とその家族、およびボランティアの交流の場づくりを企画し、年に2度ほど外出している。

2014年度は2013年に引き続き開催することができなかった。

② たすけあいサロン（ミニデイサービス）

たすけあいの会では2000年度6月より、月に1度（第1土曜日）にめぐみデイサービスセンターをお借りして、ミニデイサービス（たすけあいサロン）を開催しはじめた。2001年度8月より場所を「ぼちぼちはうす」に変更し、続けている。毎回6～11名程度の比較的年齢の高い方、中途障害、難病の方が集まっておしゃべりに花をさかせている。

3月29日（土）	7名	花見（4月実施分として）
6月14日（土）	7名	山田池公園へ
7月12日（土）	8名	
8月2日（土）	8名	
9月6日（土）	9名	
10月4日（土）	8名	
11月1日（土）	6名	
12月6日（土）	8名	
1月10日（土）	7名	
1月25日（日）	12名	新年会
3月7日（土）	7名	

総計 のべ87名

③ 寝屋川さくらんぼの会ミニデイサービス

1998年に寝屋川市で開催した失語症ライブの同窓会を元に、言語障害、失語症を持つ人たちの会「寝屋川さくらんぼの会」が結成された。2001年11月からは、めぐみデイサービスセンターにて言語聴覚士の方の協力を得、月に1度（第3土曜日）にミニデイサービスを行っている。現在は、場所を保健福祉センターに変え、言語聴覚士の専門学校生（大阪医専）のボランティアの協力を得ながら活動を行っている。現在の登録メンバーは4名。ここ6年ほどはメンバーの入れ替わりが激しくなり、メンバーが減少している。

4月19日（土）	参加者1名	家族 名	ボランティア 6名
5月17日（土）	参加者1名	家族 名	ボランティア 5名
6月21日（土）	参加者1名	家族 名	ボランティア 5名
7月19日（土）	参加者3名	家族1名	ボランティア 5名
8月16日（土）	参加者1名	家族 名	ボランティア 3名
9月20日（土）	参加者2名	家族 名	ボランティア 5名
10月18日（土）	参加者3名	家族 名	ボランティア 4名
11月15日（土）	参加者2名	家族 名	ボランティア 5名
12月20日（土）	参加者2名	家族 名	ボランティア 8名
1月17日（土）	参加者2名	家族 名	ボランティア 4名
2月21日（土）	参加者2名	家族 名	ボランティア 4名
3月21日（土）	参加者1名	家族 名	ボランティア 6名

総計 のべ参加者 21名 家族 1名 ボランティア 60名

④ maru◎kuru（まるくる）

古くからの会員さん、ボランティアさんというよりは、近年新しく出会った方（そるどみ、事務局ボラなど）に声をかけ、すだちを使って交流する。2014年度は開催せず。

(3) 福祉施設などへの訪問ボランティア活動

① 特別養護老人ホーム寝屋川十字の園

1978年より毎月1回（第3火曜日）、市内の特別養護老人ホームを訪問し、清掃、縫製、お年寄りの話し相手・代筆等の活動を行っている。参加ボランティア3～6名。活動内容は古着の裁断やガーゼ折りなど。

情報誌の活用により活動者が増えた。

	日	時	活動内容	参加数
1	4/15	10時～12時	ガーゼ大中2Pカレンダー再利用→メモ用紙	5名
2	5/20	10時～12時	ベッドカバーの作成・ガーゼ作り	6名
3	6/17	10時～12時	古布裁断	4名
4	7/15	10時～12時	ベット柵カバーの紐作り・古着裁断	5名
5	9/16	10時～12時	タオルを三つ折にしてミシンがけ・古着裁断	3名
6	10/21	10時～12時	ガーゼ大2P・古着裁断	5名
7	11/18	10時～12時	バスタオルを足ふきマットに製作	4名
8	12/16	10時～12時	ガーゼ(大・中)	7名
9	1/20	10時～12時	タオルを切って雑巾製作	7名
10	2/17	10時～12時	古着の裁断・バスタオルの足ふき・玄関マット	5名
11	3/17	10時～12時	ガーゼ折(大中小)2P・台拭きを作る	4名

② ケアハウス「ロイヤルライフ・カミダ」

1994年3月より市内のケアハウス「ロイヤルライフ・カミダ」への訪問を開始し、施設の清掃、デイサービスの補助、散歩、買い物の介助などを行っている。主に、火曜日・金曜日に施設内の清掃・デイサービスの補助・季節行事のお手伝いを行っている。年々、活動は停滞していたが、数年前に活動をしていただいていた方が再び活動していただけることになり、活動自体が再開した。

③ 神経系難病者交流会「ひまわり会」への協力

もともと月に1回開かれる大阪府寝屋川保健所主催で開かれていた「ひまわり会」。2013年度から、保健所事業ではなく、自主的な事業となっている。その「ひまわり会」に、引き続きボランティアとしてお手伝いさせていただいている。

(4) 子どもの遊びの活動

① そるどみ(SOL DE DOMINGO)の開催

障害のある子もない子も、地域の小学生とボランティアと一緒に遊ぶ活動。2014年度の登録メンバーは2名。毎月第1日曜日に「すだち」を拠点に活動を行っている。特別プログラムとして、遠足やお泊りプログラム、また夜ご飯をいっしょに作って食べるという「ロングバージョン」も実施

した。毎回、学生や社会人がボランティアとして参加している。

4月6日(日)	メンバー2名	ボランティア	4名
5月4日(日)	メンバー1名	ボランティア	6名
6月1日(日)	メンバー0名	ボランティア	7名

※この日はメンバーが不参加のため、ボランティア同士でそるどみの活動を振り返るミーティングや簡単なワークショップを行う。

7月6日(日)	メンバー2名	ボランティア	10名
8月2日(土)	メンバー2名	ボランティア	5名
3日(日)	メンバー2名	ボランティア	9名
9月7日(日)	メンバー2名	ボランティア	5名
10月5日(日)	メンバー2名	ボランティア	7名
11月2日(日)	メンバー1名	ボランティア	5名
12月7日(日)	メンバー1名(早退)	ボランティア	6名
1月11日(日)	メンバー2名	ボランティア	6名
2月1日(日)	メンバー1名	ボランティア	6名
3月1日(日)	メンバー2名	ボランティア	8名

総計 ボランティア のべ84名

SOL DE DOMINGO



そるどみ♪

★「そるどみ同窓会」を開催(寝屋川市立保健福祉センター多目的ホール)

11月16日(日) メンバー3名 保護者3名 ボランティア8名

② あそび市の開催

市内在住の小学生と保護者を対象に、市立保健福祉エンター多目的ホールにて単発の遊びのプログラムを行った。そらどみの活動紹介展示も同時に開催した。2014年度は実施せず。

(5) 社会的ひきこもり社会参加支援

① 06, 07年度、府が行っていた社会的ひきこもり社会参加支援グループ事業を実施していた。このモデル事業は府内2カ所で行われ、そのうちの1カ所を受託し実施した。一年半で社会的ひきこもりネットワーク会議からの推薦で7名の方の支援を行った。モデル事業は、2007年度で終了。その後も活動を続けている。

- ・サロン活動 毎月1回程度。
- ・以前、事務局の活動に参加していただいていた方の中にはほかのプログラムに参加していただいている方もおられる。

② 寝屋川保健所主催で開催されていた社会的ひきこもり者ネットワーク会議は、2014年より、寝屋川市自立支援協議会のプロジェクト会議に再編され、それに当会も参画している。

B 障害者総合支援法に基づく事業

(1) 社会参加活動センター「ぼちぼちはうす」

障害のある方の豊かな日中活動を行っていただく場として、「ぼちぼちはうす」を2000年10月より開設した。2003年度からは、寝屋川市の基準該当の身体障害者デイサービスとして知的障害の方の相互利用を含めて、運用することになった。

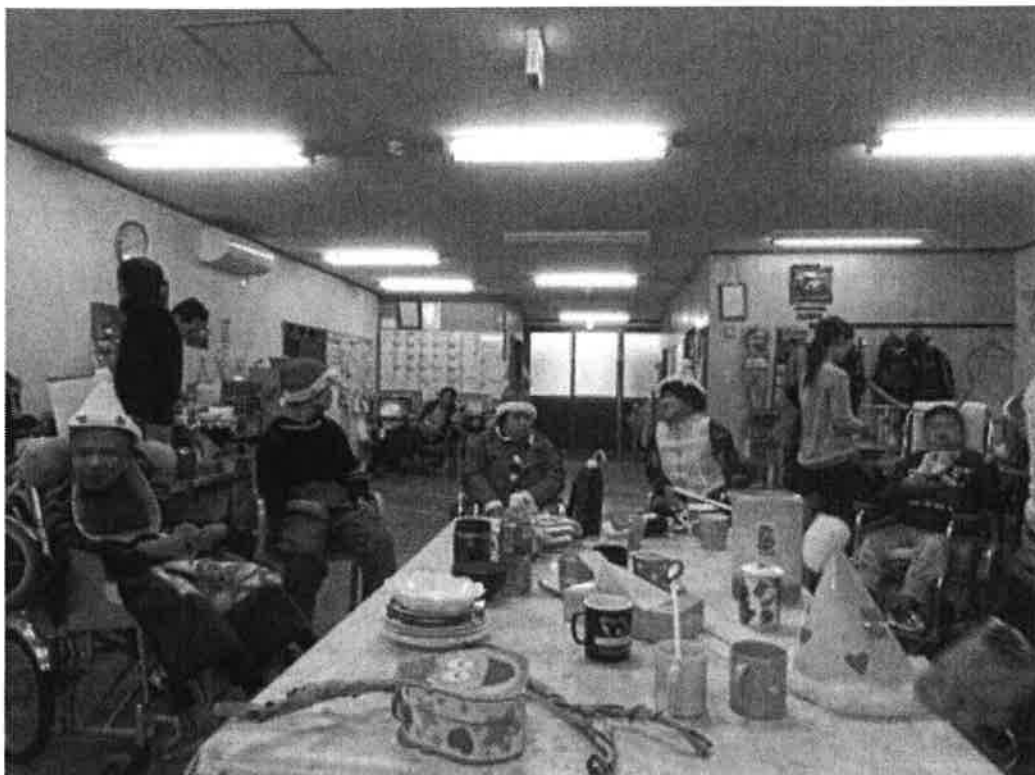
その後、2006年度、障害者自立支援法により存続の危機に直面。2006年3月19日の毎日放送「映像06」でぼちぼちはうすが取材・放送された。放送後、117人の方から288万2100円の寄付をいただき、ぼちぼちはうすの横を新たに借りあげ改装し、「ぼちぼちはうす新館」を開設。障害者自立支援法制度施行後は、2006年度上半期は「障害者デイサービス」として、下半期は「経過的デイサービス」と「重度障害者等包括支援事業の一部」として運営をした。

2007年度より、市の委託事業として旧障害者デイサービスの移行種別である「地域活動支援センターⅡ型（定員15名）」と「重度障害者等包括支援事業の一部」として運営している。

利用時間は9:50～16:10である。重度障害者等包括支援事業の対象の方

が6名。地域活動支援センターⅡ型の登録の方が22名（うち、「ゆる・りろ」9名、「風ride(プライド)2名、パラデロ4名、その他2名含」となっている。もともと利用されていた重症心身障害の方、全身性障害の方、知的障害の方に加えて、高次脳機能障害や精神障害、発達障害の方が増えている。

見学・来訪者は368名、ボランティアはのべ35名であった。



【ぼちぼちはうす】

② 「ゆと・りろ」(精神障害者ユニット)

精神に障害のある方の日中活動の場として、食事作りや、仲間と集う活動を中心としたプログラム。食事作りでは、メンバー間で献立を考え、買い出しをし、調理等も役割分担している。仲間やボランティアも交えた空間で共に過ごし、一人一人が役割と、自分らしいスタイルが持てる場を目的としている。14年度の登録者数10名。

2014年度は、プログラムでの、のべ利用者は1258人。メンバーのべ1208人。ボランティア・見学者は、のべ50人だった。

<プログラム内容>

ランチ王：献立から買い出し、調理。作ったご飯を食べるプログラム。

キャッチコピーは、「一人ひとりがオーナー兼シェフ」

ランチ皇子：簡単調理で美味しく、楽しく食べるプログラムです。

徒徒の会：ウォーキングを中心とした、体にあまり負担かけずに運動をするプログラムです。

ヨガロマ：女性限定のプログラム。アロマ体験や、ヨガ等のストレッチを行います。

モクジョ会：女性限定のプログラム・簡単なお菓子作りやスクラップブックキングなど、女子会ならではの取り組みを楽しみます。

情報 PPP：パソコンについてみんなで勉強する場。ブログを使って情報発信もしています。「ゆと・りろブログ」

<http://utoriro.cocolog-nifty.com/>

あまみ党の会：お話をしたり、パソコンや本を見たりと自由に過ごすことができます。

ある日曜日の昼下がり：12時カフェロビーが open。珈琲をのみながらゆっくりと過ごし、13時半から映画鑑賞会。映像を楽しみ、観終わった後は、参加者同士で感想を語りあいます。

<週間プログラム>

開催曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日 (月2回)	日曜日 (月1 最終週)
AM	ランチ王	ランチ皇子		ランチ王	ランチ王	ランチ王	ある日曜日の昼下がり
PM	情報 PPP	徒徒の会		ヨガロマ モクジョ会	あまみ 党の会	カフェ	

③ 風ride (プライド)

自立生活支援センターづくりをめざして活動をしている。メンバーは2名。第3日曜日に「語ろう会」を主な活動とし、新しいメンバーあつめをかね、月に1度DVD上映会を開催している。

④ パラデロ

高次脳機能障害の方を主に対象としたプログラム。リハビリ的な要素を取り入れ、紙すきや古切手を使った画づくり、園芸などの作業、あとは個別プログラムとして、音楽プログラムやパソコンなどをおこなっている。また、昨年度から、メンバーが増えたこともあり、作業療法的な要素を取り入れたプログラムや体操など、ことばの訓練的なものなどを取り入れている。

(2) ヘルパーステーション「ほっと」

① 障害者居宅介護事業

2002年度より、精神障害者の居宅介護等事業をはじめた。2003年度より、身体障害、知的障害児者の制度が支援費制度になり、身体障害、知的障害児者のホームヘルプ（身体介護・家事援助）の事業も開始した。

2006年度は、障害者自立支援法による改正があり、現在は、居宅介護(身体、知的、精神、障害児)、重度訪問介護(全身性障害)、行動援護(知的、精神)、重度障害者等包括支援事業と、市の委託により移動支援事業を行っている。

当会では同行援護は実施していない。

2014年度在宅サービス実績（上段／下段は2013年度）

	利用者数	回数	時間
居宅介護	4人 (4人)	756回 (713回)	3595時間 (2624時間)
重度訪問介護	7人 (7人)	600回 (681回)	4503時間 (5230時間)
行動援護	4人 (5人)	439回 (436回)	1956時間 (19636時間)
移動支援	12人 (16人)	174回 (172回)	1239時間 (1236時間)
重度障害者等包括支援事業	7人 (7人)		15251時間 (14880時間)

※ 法人事業の「ヘルパーステーションほっと」と「ぼちぼちはうす」の苦情解決第三者委員については、追手門学院大学教員の古川隆司さんをお願いしている。

C 介護保険法に基づく事業

実績なし。休止中。

D 移送サービス事業

1997年、市内の住民参加型在宅福祉サービスを手がけていた団体が解散することになり、その団体が日本財団からもらっていたリフト付きの軽ワゴン車を譲渡されることになった。以前より、病院などへの車での移送、送迎は在宅ケースとして対応していたが、車の譲渡を機に、リフト付き軽ワゴンの貸出およびこの車を利用した移送ボランティアによる移送を行っていた。

現在は、国の NPO 等による移送サービスの制度化が進んだことともない、2005年度半ばに運営協議会の結成後、NPO 法人有償移送（いわゆる道路交通法 80条適用移送）の申請を行った。しかしながら、積極的に事業を行う姿勢はとっていない。

情報などの収集のために関西 STS に参加している。

関西 STS の活動は、現在移送サービスの運転者の養成事業にも取り組み、また、災害時における障がい者、移動制約者への移動送迎支援活動基金設立など、活動を広げている。

E くらし支援事業

2010 年度、市からの居住サポート立ち上げ支援事業と社会福祉振興助成事業、そして、重度障害者等包括支援事業を活用し、「障害のある方の暮らしを支える」取組みをはじめた。

2012年度より取組みを整理し、「すだち」を仮の「(仮称) サポートセンター」として位置づけ、地域の中で暮らしていかれる生活のサポートを行う取組みを考え、実践をはじめた。2012年度より、1カ所、「シェアハウス」=2人暮らし用のマンションを当会で賃貸し、契約し、住んでいただくことをはじめた。

また、障害者総合支援法の地域定着支援という地域で生活を行うことを支援ができる制度ができたこともあり、相談支援センターとしてもひとりぐらし支援やシェアハウスの支援を行っている。かぎのあずかりや金銭管理サポート、緊急支援なども行っている。

【2】コーディネート事業・相談活動・ボランティア支援・当事者支援活動

A 障害者総合支援法に基づく相談活動

(1) 寝屋川市障害者相談支援事業の委託運営

2002年度より、寝屋川市より市町村障害者生活支援事業の委託をうけ、寝屋川市民たすけあいの会地域生活支援センターを運営している。制度の改正に伴い、大阪府の指定相談支援事業所となり、また、寝屋川市の委託相談支援事業所にもなっている。2013年度から委託事業の委託内容と事業内容もかわり、委託+基幹相談支援センター機能強化事業という形になった。当センターにもちこまれる相談は、多問題、支援困難ケースが関係機関から持ち込まれることが多く、訪問対応をすることが多い。

総合相談件数 1133件

難病者ピアカウンセリング ……毎日+出張相談日 第3水曜日
視覚障害者ピアカウンセリング……毎月第4土曜日

市から依頼され、聴覚障害者ピアカウンセリング…聴覚言語部会の取り組みに補助している

(2) **基幹相談支援センター機能強化事業の受託運営**

・ **自立支援協議会の運営への協力部分**

相談支援機能強化事業の委託を受け、主に、ネットワーク推進員として、寝屋川市障害者地域自立支援協議会の運営に参画している。

【全体会】

自立支援協議会事務局会議（月1回）、

【部会・ワーキング】

就業・生活支援センター実務担当者会議（月1回）

相談支援ネットワーク会議（月1回）

精神障害者部会ワーキング（月1回）

地域活動支援部会（月1回）

発達障害者支援プロジェクト

（大人の発達障害&社会的ひきこもり、サポート手帳作成委員会）

【サブ・ワーキング】

就労移行事業所連絡会

精神障害者部会地域移行定着B

理解・啓発サブワーキング

* フェスタ実行委員

（「ねや川ワッショイ春のハート祭り」開催 2015年3月1日）

・ **障害者虐待防止センターへの協力**

市からの委託を受け、障害者虐待防止センターのコアメンバーとして、スタッフを一人派遣している。また、それにともない、虐待通報対応のための24時間の連絡体制をとっている。

(3) **障害者自立支援法にかかる障害支援区分審査会への審査員としての派遣**

障害者総合支援法の介護給付のサービスを受けるにあたり、認定審査をうける必要がある。二次審査として審査会が設置され、その審査員としてスタッフを派遣している。

(4) サービス利用計画策定事業

2013年度から制度が変わり、むこう3年のうちに、すべての障害福祉サービスを利用されている方に、サービス利用計画の策定を行うことになっている。当センターは、指定特定相談支援事業所として、60名の方のサービス利用計画の策定を行っている。一人暮らしの方、高齢の要介護の親御さんと同居の方、退院支援を行った方などである。

支援学校高等部卒業時の一時的な計画相談を受けたため、件数としては増加したが、2013年度の終わりから、その件について行政との話し合いを行っており、2014年度には、特定相談の事業所に順次、引き継いでいっている。特定相談支援の事業所としては、現在の方針としては徐々に縮小をしていく予定にしている。

(5) 居住サポート事業の受託運営

2011年度、障害があるため一般の住宅への入居やそれに伴う手続き、住宅探しなどに支援が必要な方への支援を行う事業の受託運営を行った。2012年度からは、相談支援事業の中で行うことになったが、家探し引っ越しのサポートなどを行っている。

また、2011年度の社会福祉振興助成金によって、行った研究事業により、ホームレス状態から家を確保したとき、家族から分離独立したとき、また施設からひとり暮らしになったときなどに、家財道具が一式なく、何もない中で生活をはじめなければならないということが起こることがわかってきた。そこで、会員のみなさんや関係者から寄贈いただいた家財道具（冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電気ポットなど）をストックし、必要に応じて、差し上げたり、一時的に貸し出したりをしている。また、生活保護を受ける前の敷金の一時的な立て替えも行っている。

こういった取組みを行っている中で、昨年度より、貧困であったり、ひきこもり状態で食料を手に入れる術のない方の支援を行うなど、貧困化の課題に直面し、その支援を行っている。

B 地域ネットワーク活動

(1) 関係機関会議への出席

① 地域自立支援協議会精神障害者部会への参加

→自立支援協議会精神障害者部会 長会議(2/12 開催)

→理解促進・啓発サブワーキングへの参加

→フェスタ実行委員

*3/1(日) 「ねや川ワッショイ春のハート祭り」

場 所：寝屋川市立総合センター 2階講堂

参加者：100名 参加費：無料

ゲスト：よっちゃん 一人芝居「闇の中、輝く命 統合失調 show ♪♪♪」



→地域移行定着 B サブワーキングへの参加(全4回)

(2) ボランティア関係の会議への出席および参画

① ボランティア連絡協議会

寝屋川ボランティアセンターの登録グループの連絡協議会へ参加。ボランティアセンター、他のグループとの相互理解・情報交換を進めた。

② 大阪ボランティア協会パートナーシップ団体への登録

(3) 精神障害者支援機関のネットワークへの参画

① 精神障害者地域交流事業「ClubE&T」への協力

大阪府の補助金事業であった「精神障害者地域交流事業」が平成24年度をもって各団体へ出されていた補助金をうちきったため、25年度より寝屋川市独自の精神障害者地域交流事業として「Club E&T」(旧ひなたぼっこの会)を引き続き運営。事務局も引き続き担当し、協力、各交流事業へ参加している。月に1回定例で運営委員会も行われている。「地域交流」をキーワードに、市民啓発を含めた市民交流行事と、当事者間の交流を目的とした小規模サロンの2本柱で事業を展開している。

●Club E&T 運営委員会

参加機関：みつわ会、三家クリニック、ねや川サナトリウム、たすけあいの会

運営委員会開催数：12回 参加数：49名 *内当事者0人

<ClubE&T 主催 イベント>

・ボードゲーム大会

日 時：2014年7月17日 場所：寝屋川市立総合センター 多目的室2

参加数：9名 *内当事者4名

・女性限定 「女子会映画サロン」

日 時：2014年11月20日 場所：寝屋川市立総合センター 視聴覚室

参加数：13名 *内当事者8名

・みんなで作りませんか？「フェイクスイーツ作りⅡ」

日 時：2015年2月14日

場 所：寝屋川市保健福祉センター5階 研修室5

参加数：16名 *内当事者9名

・「ハート・アート展」

日 時：2015年3月10日～11日

場 所：寝屋川市立市民ギャラリー1

参加数：376名

総計4回 のべ414名 (*うち当事者数21名)

●ふれあいの会 (当事者が中心にイベントなどを企画するグループ)

1) 会 議 開催数：12回 参加数：77名 *内当事者65人

2) イベント(当事者中心に企画されたイベント)

開催数：4回 参加数：18名 *内当事者14人

3) チラシ編集会 (広報活動。イベント案内やチラシの作成をする)

開催数：12回 参加数：56名 *内当事者44人

総計28回 のべ151名 (*うち当事者数123名)

C ボランティア活動支援事業

① ボランティア・サロンの開催

ケース検討会が休止したこともあり、またボランティア同士の交流の機会が減っていることから、ボランティアの活動報告と交流を目的に新しく開始した。

5月、6月、7月、10月の第4水曜日の午後に開催した。

4月、6月、8月、10月、12月、2月は、つなぐの発送作業を毎回2日間行った。

D 当事者団体支援活動

▶ 寝屋川難病連絡会

96年度の5月12日に、市内の難病団体および難病者のための寝屋川難病連絡会の発足総会が行われた。また月1回の運営委員会が行われている。当会はその事務局として、連絡調整、広報、会場・備品の提供などを行っている。

大阪難病連絡会の地域交流会を8月24日(日)保健福祉センターで行われた。八尾市・堺市・東大阪市・松原市・大難連・寝屋川市から17名参加
寝屋川難病連絡会第19回総会が11月30日(日)に行われた 9名参加

★寝屋川市障害者計画等推進委員会への当事者委員としての参加

障害者基本法に位置付けられた寝屋川市障害者計画等推進委員会に推薦、参画した。

★障害者総合支援法にかかる障害支援区分審査会への審査員としての派遣

▶ 障がい者の自立を考える会「やじろべー」

車いす利用者の6名を中心に自分たちの自立生活を考える会として発足。障害者自立に関することを考えながら、特に余暇的な活動を中心にされている。

【3】教育・啓発活動

A インプロ・パーク

インプロとは英語のインプロヴィゼーション＝「即興」の略。元々は俳優のトレーニングとして開発された即興劇のプログラムで、わが国でも90年代以降、学校教育、企業研修などいろいろな分野でコミュニケーションワークショップとして応用されている。

東京からファシリテーターの鈴木聡之さんをお呼びし、2014年度は2回開

催した

4月 20日 (日) 参加者 7名
11月 30日 (日) 参加者 11名

B ワークショップ等の開催

2014年度は実施せず

C. 「ソーシャルワーカー・センスとは ～貧困問題に対するソーシャルワークの可能性～」講演会開催

寝屋川市の福祉関係者、専門職を対象にした講演会。講師に、首都圏で生活困窮者への支援や、生活保護、生活困窮者支援の在り方に関する活動や提言を行っている「NPO 法人ほっとプラス」代表理事の藤田孝典さんをお招きし、貧困問題(ケース)とその背景(精神疾患、障害、失業、子どもの貧困、ブラック企業、孤立、依存、再生産)を伺いました。またその藤田さんの活動や取り組み、実践を通して、参加者と共にソーシャルワークについて改めて考える場となった。

日 時：9月6日(土) 13:30開場 14:00～16:00

来場者数：30名

参加費：無料

会 場：寝屋川市立保健福祉センター5階 研修室5

ゲ ス ト：藤田孝典さん(「NPO 法人ほっとプラス」代表理事)



【4】コミュニティ・メディアにかかる活動

A カフェ放送「てれれ」の上映会の開催

大阪市にある映像発信「てれれ」という団体が展開している取り組み。様々な視点で作られた、いろんなテーマの10分以内の映像作品を1時間のプログラムにして、カフェなどで隔月定期上映されている。その「てれれ」のプログラムを、スタッフやボランティアさんとともに一般にも広く呼びかけ行ってきた。映像を観ることはもちろん、そのあとはお茶を飲みながら映像の感想などを話す時間も大切にしている。

※2013年12月で、カフェ放送「てれれ」の活動が休止となるが、たすけあいの会で映像を見て語り合う取り組みは引き続き継続している。

2014年度は6回開催した。

4月12日(土)	参加者	9名
6月14日(土)	参加者	6名
8月9日(土)	参加者	7名
10月11日(土)	参加者	7名
12月12日(土)	参加者	4名
2月4日(土)	参加者	11名

★「カフェ放送てれれ」事務局主催『よし！てれれを再開しよう』

7月5日(土)開催に参加。

ゲストスピーカーとして、寝屋川でのてれれの取り組みについて紹介した。

★映像あそびのワークショップ「なにとる(撮る)?ナニみる?」開催

「テーマに沿って動画を撮ってみよう」「音楽を入れたりアフレコしたり、映像を加工しよう」をテーマに2回シリーズでワークショップを行う。

6月21日(日) 参加者 12名

7月12日(日) 参加者 10名

【5】国際的な草の根の交流を行う事業

2014年度は実施せず。

【6】リサイクルバザー事業

A ぼちぼちバザール

毎年、7月に市内の団体に声をかけて、共同で行っているバザー。

日にち：7月13日(日) (主催：6団体の参加)

場 所：総合センター1階

売 上：49,800円 当日のボランティア8名

B エコの市

寝屋川市主催のエコフェスタに参加。

日にち：11月16日（日） 場 所：打上川治水緑地

売 上：12,000円 当日のボランティア：4人

C 東北⇔関西ポジティブ生活文化交流祭2014

日にち：11月23日（日） 場 所：長居公園

売 上：11,000円 当日のボランティア：2人

D 親の会バザー

日にち：3月1日（日） 場 所：総合センター

売 上：6,400円 当日のボランティア：4人

【2】 組 織 と 運 営

【1】 会 員

(1) 会員数＝会費納入者

2015年3月末現在

	個人会員	団体会員
13年度までの会員	160名	8名
14年度 加入者	40名	4名
14年度 退会者	39名	1名
会 員 数	161名	11名
総 会 員 数	172名	

注) 数字のカウントの仕方

→2013年度会費納入者数

→新規および復活者数

→退会および2014年未納入者数

→2014年会費納入者数

(2) 会員へのサービス

1) 会誌「つなぐ」の送付 6回

2) ボランティア保険への加入（一部会員のみ、会費より）

【2】組織活動（敬称略）

(1) 定期総会

日 時 2014年5月25日（日） 10:30～12:00
場 所 ぼちぼち하우스
議 題 1) 2013年度法人事業報告
2) 2014年度法人事業計画・予算計画の審議・承認
※ポトラック
出席者 138名（委任状提出者 112名）

(2) 運営委員会

毎月第1月曜日 14:00～16:00
運営委員：田中哲次郎、別所訓子、西尾美津子、森川加代、村井謙太、
守本友美、
主な議事 事業の企画と調整

(3) 理 事 会

たすけあいの会の運営委員会時に開催。

1. 日 時：2014年4月7日（月）13:30～14:00
森川・村井・富田・守本理事・田中監事
議 題：①今年度の計画について
②今年度の職員体制について
2. 日 時：2014年11月10日（月）15:30～17:00
森川・村井・富田理事・田中監事
議 題：①キッチンの入れ替えなど、老朽化物品についての検討
②2014年度 上半期を終了して、2015年度にむけて
③新規事業について
④委託事業についての見直し
⑤くらし支援をすすめていくために
3. 日 時：2014年11月10日（月）15:30～17:00
森川・村井・富田・守本理事・田中監事
議 題：①今年度の状況について 第五期 2014～16年度 一年目
②内部的見直しについて 財務
③組織のガバナンス向上のために 内部研修実施
④福祉事業について
⑤福祉事業以外について

(4) 理事総会（社員総会）

5月16日(火) 外部理事、監事の3名とスタッフにて、法人の社員総会の位置づけで開催。

理 事：森川・村井・富田

監 事：田中

外部理事：石井祐理子（光華女子大学教員）

川口 裕之（NPO法人キッズポケット、てづくりほいく研究会）

(5) 常任委員会

今年度は開催されず

(6) 福祉事業部ミーティング

今年度は開催されず

(7) スタッフ研修会

1. 日 時：2014年7月11日 講師：石井祐理子（光華女子大学）

テーマ「再発見！たすけあいの会そしてワタシ①」

2. 日 時：2014年9月30日 講師：古川隆司（追手門学院大学）

テーマ「感染症について知ろう！」

3. 日 時：2014年12月16日 講師：富田昌吾、山野仁美

テーマ「お薬をもっと身近に感じよう」

4. 日 時：2015年1月9日 講師：守本友美（皇學館大学）

テーマ「再発見！たすけあいの会そしてワタシ②」

5. 日 時：2015年2月3日 講師：富田昌吾

テーマ「楽しい食事とは？」

(8) 職 員

2014年度の常勤職員。

村井謙太、富田昌吾、中務飛鳥、西岡寛信、藤本祥平、大村静香、山田久美子、大島亜弓、山野仁美、野畑大幸、原岡由維、中村真人、三国洋子、重村大介、有馬綾花、春日紀衣、平野夕貴、橋本詩織、中村駿、織田沙友来

(9) 福祉事業を考える会（仮称）

開催されず

【3】広報活動・寄付を求める活動

(1) 会誌「つなぐ」の発行 6回

* B5版、手書き、12ページ～16ページ 650部（隔月刊）

★身体障害者刊行物協会の出版として第3種郵便物として発行

(2) ホームページの公開

<http://neyagawatasukeai.org>

Twitter、Facebook の活用をおこなっている。

(3) イオンの行っているイエローレシートキャンペーンに参加した。(44,200円)

(4) リサイクル・インクカートリッジ事業に取り組んでいる。

・買取業者の事業中止により今年度限りとなる。